



1つでも上の順位を目指して
北海道中学校駅伝競走大会出場報告
北海道中学校駅伝大会に出場する新得中学校と屈足中学校の生徒12人が10月13日、武田芳秋教育長のもとを訪れました。
新得中学校主将の奥村晴樹くんは「去年の順位より上がるように走りたい」、屈足中学校主将の高本颯佑くんは「本番で今までの練習の成果を出し、悔いのない走りをしてほしい」と決意表明しました。
それを受け武田教育長は「1つでも順位を上げられるよう頑張ってくださいを渡してください」と激励しました。
なお、大会の詳細は下に記載しています。



全国への切符を目指して75校が競う
第34回北海道中学校駅伝競走大会が新得で開催
第34回北海道中学校駅伝競走大会（一財）北海道陸上競技協会・北海道中学校体育連盟・北海道教育委員会・北海道新聞社主催）が10月16日、サホロリバーサイド運動広場で開催されました。
全道の中学校から1部（単独校）75チーム、2部（他校との合同チーム）またはクラブチーム）18チームの総勢19人が出場。関係者、観客を含めると1000人もの人で会場が埋め尽くされました。
男女ともに1部、2部にそれぞれ男子は各部共通の全6区間18キロ、女子は各部共通の全5区間12キロで順位を競いました。



屈足中学校男子



新得中学校男子

新得からは、1部に新得中学校男子（1区から奥村晴樹・3年、高瀬宙・3年、加藤拓馬・2年、斉藤三尊・3年、佐久間健多・3年、太田勇斗・3年）、屈足中学校男子（1区から鳥井洋助・3年、村瀬大我・2年、紺野唯人・3年、高本颯佑・3年、山口快・3年、霜野佑馬・2年）が出場し、精一杯の走りを見せていました。
激しいレースを制し、12月18日に滋賀県で行われる第24回全国中学校駅伝競走大会への切符を手にしたのは、男子が士別中学校、女子は札幌北陽中学校でした。
新得勢は、新得中学校が44チーム中44位、屈足中学校が44チーム中43位という結果でした。



返却された図書を整理する古田さん（左）と小菅さん

働くことの大切さを体験
町高等支援学校の生徒らが図書館などで現場実習
新得高等支援学校の1年生9人が10月24日～28日の5日間、役場や図書館、町内の事業所などで現場実習を行いました。役場で実習した小菅竜海さんと古田真凛さんは初日、2日目と台風災害の被害箇所地図を作成。3日目以降は、全町教育まつりで使用する物品の作成や図書館での図書整理などを行いました。引率の先生がサポートしながらの作業でしたが、2人の生徒は、真剣な面持ちで作業に取り組み、様々な体験を通し、働くことの大切さを直に感じているようでした。

同6	同5	同4	同3	同2	前頭	小結	関脇	大関	横綱	平成28年新得町長寿番付表
高橋助三郎	安樂義信	上原 巖	野呂巳之松	村中敬市	竹澤 隆	塚本 政市	望木 良夫	坂本 茂	合田松大良	101歳
94歳	95歳	95歳	95歳	95歳	95歳	95歳	95歳	97歳	一心の1会	21区
共栄会	あけぼの区	31区	一心の1会	38区	朝日の2会	新進会	南進会	21区	一心の1会	27区

(平成28年9月1日現在 生年月日順)

これからもお元気で楽しい人生を
敬老会で健康と長寿を祝う
台風災害の影響で1ヶ月延期した高齢者の健康と長寿を祝う敬老会が10月7日、町公民館ふれあいホールで行われました。
今年、敬老会に招待されたのは9月末現在で75歳以上のかた1236人で、うち310人が出席しました。
浜田正利町長が「大先輩の方々



紀寿（100歳）のお祝いを受けた小坂民子さん（写真中央）

の苦勞に敬意を表するとともに、今まで皆様が培ってきた知恵や能力を貸して頂きたい」とあいさつ。続いて、紀寿を迎えた3人のうち出席された小坂民子さんと、米寿を迎えた51人のうち出席された16人にお祝い状と敬老金が手渡されました。
式典後は新得保育所ぞう組の歌と踊りや藤恵会の日本舞踊、グリーン・エコーインしんとくによる合唱などのアトラクションが行われ、会場を盛り上げていました。



優秀賞は友夢牧場
平成28年度花壇コンクール表彰式
平成28年度花壇コンクール（町花いっぱい運動推進委員会主催）の表彰式が10月17日、公民館視聴覚室で開催され、入賞した11団体のうち出席した7団体に熊切隆会長から表彰状が手渡されました。
このコンクールは毎年、町の環境美化、景観向上を目的に開催されており、今年度は優秀賞に友夢牧場優良賞に屈足連合町内会と広和町内会が選ばれました。
優秀賞に選ばれた友夢牧場の湯浅幸子副社長は「きれいな花を見てもらって、少しでも心を癒してもらおうと思つて花を育てている」と話していました。



講談を行った神田さん

戦争の悲惨さを伝える
はだしのゲン新得講演会
核兵器根絶新得町平和宣言30周年記念、神田香織・講談「はだしのゲン」新得講演会（実行委員会主催）が10月9日、公民館大ホールで行われ、約150人が来場しました。「はだしのゲン」は、広島で原爆を体験したゲンを主人公に戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ、いろいろな困難を乗り越えていくゲンの力強さが描かれています。
神田さんは戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを照明や効果音、臨場感ある語り口で表現し、会場は「はだしのゲン」の世界へ引き込まれました。
最後に実行委員会を代表し、平良則さんから「広島原爆での悲惨な記憶を忘れないで、心にきざんでいつともらいたい」とあいさつがありました。